

総務市民委員会

【テーマ：「コミ協設立10有余年が経過、将来に向けての課題と方向性」】

ご意見としていただくもの

<人材・担い手・後継者・組織>

・働いている、働かないと生活に余裕が無い。65才～70才は現役。ボランティアに頼りすぎる。コミ協の活動について、ボランティアを基本とするのは無理がある。40代から50代の市民の方のコミ協との関りが少ない。コミ協の女性役員が少ない。

・コミ協の存在感薄い。コミセンとコミ協の関係区長と自治会長両方ある。7コミ協それぞれやり方が違う。65歳でも皆さん働いているのでコミ協に関わりにくい。

・行政からの仕事多い。コミ協の認知度が低い。コミ協の役割、シンプルな行事に見直せ。区長業務の分担等。

・コミセン、コミ協、自治会、区長責任重い。コミ協の役割判りやすく。

<情報支援>

・個人情報の取り扱いが難しい。集合住宅の独居対策ができない。子どもに関しても同様。民生委員やPTA、隣組長との連携が必要だができてない。

<その他>

・子育て場所がない。コミセン利用したいが交通手段がない。買い物も同様。青パトの活用乗り合いタクシー利用したい。

今後の課題とするもの

<人材・担い手・後継者・組織>

・コミ協の役員手当が少ない、働いている。活動量は増えた。人を集めるためにはそれなりの報酬が必要。

・役員の魅力がない、報酬が少ない。コミ協の役員をしていると苦情を言われることが多い。

・各行政区の課題解決になっていない。イベントを見直し人が集まれるようにする。コミ協の仕事量が多すぎる。

<物的支援>

・集いの場、癒しの場、運動施設がない。

<財政支援>

・コミュニティに対する交付額が10年間変わっていない。見直し必要。

<災害対策>

・災害対策のモデル地区づくりを行ってはどうか。

まとめ

本会議場内に椅子を入れ、執行部席に議員が着席し、開会行事、意見集約の発表、閉会行事を行った。ワークショップ形式で7班に別れ議論を行った。特に多かった意見は「後継者」「担い手」等の人の不足問題に関する不安や働く年齢が高くなり、現役として仕事をされている方が増えている状況の中、コミュニティの役職者として仕事量が増えているために「報酬増」がなければ生活等に影響してくる。担い手や後継者に関しては、今後コミュニティの運営にも関わってくる。また組織が分かりずらくなっている(コミュニティ運営協議会組織とコミュニティセンター組織)等組織のシンプル化が必要。防災関連においては、モデル地区の創設。高齢者の情報が個人情報保護のため災害時等に生かしづらいなどの意見があった。